
株主の皆様へ

第154期

第2四半期事業のご報告

2018年4月1日～2018年9月30日



■ トップメッセージ

「働き方改革」を経営の中心に据えた中期経営計画に基づき、次の100年も持続的に成長していくための経営基盤の強化に取り組んでいます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第154期第2四半期(2018年4月1日から2018年9月30日まで)における経営環境は、EC市場の拡大等による小口貨物の増加基調に加え、国内労働需給の逼迫など、厳しい状況が継続しています。このような状況のもと、ヤマトグループは高品質なサービスを提供し続けるため、「働き方改革」を経営の中心に据え、「デリバリー事業の構造改革」、「非連続成長を実現するための収益・事業構造改革」、「持続的に成長していくためのグループ経営構造改革」の3つの改革を柱とする3か年の中期経営計画「KAIKAKU 2019 for NEXT100」に基づき、2019年11月に迎える創業100周年の先も社会的インフラとしての使命を果たしつつ、持続的に成長していくための経営基盤の強化に取り組んでいます。

デリバリー事業においては、収益力の回復と集配キャパシティの拡大を両立させるべく、プライシングの適正化やお客様

の信頼と期待に応えるための集配体制の強化など、ラストワンマイルネットワークの再構築を推進しました。その結果、改革に係る費用が増加する中で、宅急便単価が上昇したことなどにより、業績は堅調に推移しました。

ノンデリバリー事業においては、引き続きグループ各社の強みを活かした既存サービスの拡充に取り組むとともに、グループ横断的に連携してお客様の課題解決に当たるソリューション営業を積極的に推進しました。これらの結果、当第2四半期(累計)の連結業績は営業収益、営業利益ともに、前年同期を上回りました。

ヤマトグループは、引き続き「働き方改革」を経営の中心に据え、「KAIKAKU 2019 for NEXT100」を推進するとともに、ヤマトホームコンビニエンス株式会社において、法人のお客様の社員向け引越サービスにて不適切な請求が起きてしまったことを深く反省し、二度とこうした事態を招かぬよう、社長である私が先頭に立ちグループガバナンス改革に取り組んでまいります。ヤマトグループの社員一人ひとりが高い倫理観を備え、経営理念の実現に向けて行動していくことで、お客様、株主の皆様をはじめステークホルダーの皆様から信頼される会社であり続けることを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後もヤマトグループに、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 社長執行役員
山内 雅喜

| 決算ハイライト | 前第2四半期 (単位:億円) | 当第2四半期 (単位:億円) | 増 減 (単位:億円) | 伸 率 |
|--------------------------|-------------------|-------------------|----------------|--------------|
| 営業収益 | 7,298 | 7,891 | ↑ 593 | 8.1%増 |
| 営業利益 | △128 | 234 | ↑ 363 | — |
| 経常利益 | △126 | 227 | ↑ 353 | — |
| 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | △120 | 99 | ↑ 220 | — |

第154期第2四半期の主な取組み

「働き方改革」を最優先課題とし、 全社一丸で取り組んでいます。

ヤマトグループの原点である「全員経営」を実践するため、「働き方改革」を最優先課題とし、社員がより「働きやすさ」と「働きがい」を持ち、イキイキと働ける労働環境の整備に全社一丸で取り組んでいます。

健全な企業風土を醸成します。

引き続き輸送体制の整備やITによる業務量の見える化など、業務の効率性・信頼性を向上させる施策を推進するとともに、安全施策や環境施策、地域活性化に向けた取組みなど、事業活動に結びついたCSR活動を積極的に推進しています。

「バリュー・ネットワーキング」構想の更なる進化に向け、 高付加価値モデルを創出します。

各事業が一体となってグループのネットワークを活かした高付加価値モデルの創出に取り組んでいます。国内外のお客様の様々なニーズに対応するために、ラストワンマイルネットワークに加え、「羽田クロノゲート」、「沖縄国際物流ハブ」、関東・中部・関西の主要都市を繋ぐ各ゲートウェイなどの革新的なネットワーク基盤を、より効果的に活用していきます。

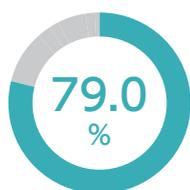
事業フォーメーション別概況・収益構成

デリバリー事業

宅急便・クロネコDM便
などを中心とする
小口貨物輸送サービス

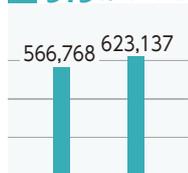


ヤマトグループに
おける収益構成



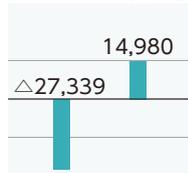
営業収益

▲9.9% (百万円)



営業利益

(百万円)



2017/9 2018/9

2017/9 2018/9

BIZ-ロジ事業

ロジスティクス事業など
企業向けの革新的な
物流システム

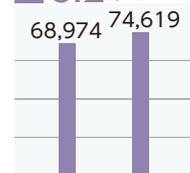


ヤマトグループに
おける収益構成



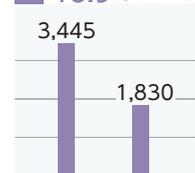
営業収益

▲8.2% (百万円)



営業利益

▼46.9% (百万円)



2017/9 2018/9

2017/9 2018/9

ホームコンビニエンス事業

引越・生活サポート・
流通サービスを中心とした
総合支援サービス



ヤマトグループに
おける収益構成



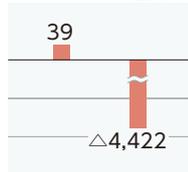
営業収益

▼15.0% (百万円)



営業利益

(百万円)



2017/9 2018/9

2017/9 2018/9

e-ビジネス事業

IT、AI、IoTなどの新技術を
活用した情報システム開発や
事業サポート

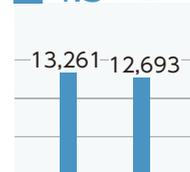


ヤマトグループに
おける収益構成



営業収益

▼4.3% (百万円)



営業利益

▲5.9% (百万円)



2017/9 2018/9

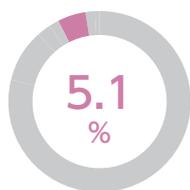
2017/9 2018/9

フィナンシャル事業

通販商品の代金回収、
企業間決済、車両リースなどの
決済・金融サービス

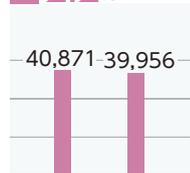


ヤマトグループに
おける収益構成



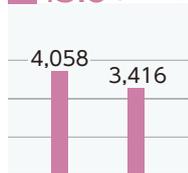
営業収益

▼2.2% (百万円)



営業利益

▼15.8% (百万円)



2017/9 2018/9

2017/9 2018/9

オートワークス事業

車両整備や物流施設・設備機器の
維持保全、保険提案などの
トータルサポート



ヤマトグループに
おける収益構成



営業収益

▲5.4% (百万円)



営業利益

▲4.6% (百万円)



2017/9 2018/9

2017/9 2018/9

*中期経営計画「KAIKAKU 2019 for NEXT100」で掲げたグループ経営構造改革に伴う組織再編を実施したため、当第1四半期から一部の事業(サービス)について、事業フォーメーションの区分を変更しています。なお、変更内容の詳細は、ホームページ(<http://www.yamato-hd.co.jp/>)に掲載の「2019年3月期 第2四半期決算短信」16ページをご覧ください。

ヤマトグループの「働き方改革」

物流業界は、消費スタイルの急速な変化に伴うEC市場の拡大等による小口貨物の増加基調に加え、国内労働需給の逼迫など、厳しい経営環境が継続しています。

このような状況下、ヤマトグループは、高品質なサービスを提供し続けるため、「働き方改革」を最優先の課題とし、グループ全体で働きやすさと働きがいを向上させ、ヤマトグループの原点である「全員経営」を実践することで、持続的な成長を目指しています。

【ヤマトグループが推進する「働き方改革」の主な取組みをご紹介します】

2017年4月

「ヤマトグループ働き方創造委員会」を設置(ヤマトグループ)

グループ全体の「働き方改革」を推進するため、ヤマトホールディングス社長を委員長とする「ヤマトグループ働き方創造委員会」を設置しました。「コンプライアンスの遵守」「ダイバーシティの推進」「業務の見直し・効率化とコミュニケーション」の3つの方針として定め、労使一体で取組みを進めています。

2017年3月～順次

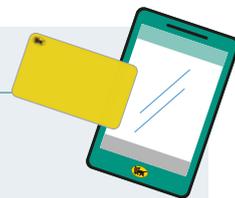
「勤務間インターバル制度」の導入 (ヤマトロジスティクス、ヤマト運輸他)

社員の生活時間や睡眠時間を確保し、ワークライフバランスを推進する環境を整備するため、勤務終了時刻から翌日の勤務開始時刻までの間、一定時間以上のインターバルを設ける制度を導入しました。

2017年4月

労働時間管理ルールの見直し・ 入退館データのデジタル化(ヤマト運輸)

分かりやすく透明性の高い労働時間管理を行うため、従来の「携帯端末による労働時間管理ルール」から、「入退館時刻を出退勤時刻とするルール」へ変更しました。8月からは、タブレットでの入退館登録により社員の出退勤時刻がデジタル化され、確定されるようになりました。



2017年3月～

「女性リーダーミーティング」でキャリア形成支援 (ヤマトグループ)

キャリア形成支援を目的に、自己実現に向けて取り組む女性社員を対象としたグループ横断のプログラム「女性リーダーミーティング」を、これまでに9回開催し、約260名が参加しました。参加者にとって、自身のキャリア形成について考える機会となり、モチベーション向上につながっています。合わせて、参加者の上司を対象に女性社員のキャリア形成を後押しする研修を実施し、実効性を高めています。



2017年6月～



「パネルディスカッション」で社長・役員と社員が 意見交換(ヤマトグループ)

より良い働き方を実現するため、社長・役員から社員に対し、「働き方改革」の目的や目指す姿を直接伝えると同時に、社長・役員に対して、第一線の社員の声や業務改善の提案などを直接伝える「パネルディスカッション」を継続的に実施しています。

2018年4月～

主管支店を88主管支店に再編(ヤマト運輸)

お客様へのサービス品質の維持・向上、新たな人材の採用や社員の育成などデリバリー事業の基盤強化のため、全国の地域経営の中心である主管支店の管理体制を再編し、新たに17主管支店を設置しました。

2018年5月～

「アンカーキャスト」の人事制度を導入(ヤマト運輸)

セールスドライバーの働き方を変えると同時に、集配キャパシティを確保するため、午後～夜間の配達業務を担う社員、「アンカーキャスト」の人事制度を導入しました。



アンカーキャストの声

子どもを送り出してから働きたかった。子どもが高校生になり、もっと働きたいと思い、アンカーキャストを希望しました。朝、子どもを送り出し、家事をして午後から出勤します。残業なしで決まった時間に帰宅できるので、子どもと一緒に夕食をとることができます。(群馬主管支店)

アンカーキャストの声

私生活との両立ができています。

この働き方の良いところは、「時間の使い方にメリハリがついた」ことです。午前中の限られた時間に集中して家事を済ませています。家族が手伝ってくれることもあり、家族のなかの家事分担をする良い機会にもなりました。(横浜主管支店)



2018年5月～

無期労働契約への転換制度を導入(ヤマト運輸)

社員がより安心して働ける環境を整備するため、勤続3年を超えるフルタイムの有期労働契約の社員および、社内でのステップアップ制度*において一定の基準に達したパートタイムの有期労働契約の社員が、法定の5年よりも早く無期労働契約に転換できる制度を導入しました。

*個人のスキルや仕事に対する姿勢などを評価し、成長に応じてステップアップする制度

2018年9月～

「労働日数・時間選択制度」を導入(ヤマト運輸)

社員が安心して働き続けられる環境を構築するため、育児、介護、加齢による体力の低下などにより、就業日数・時間を制限したい社員を対象とし、1日の労働時間を4～8時間から選べる従来の制度に加え、週4日勤務、週3日勤務など、1週間の労働日数を選べる制度を開始しました。

2018年5月～

セールスドライバーの早期正社員化(ヤマト運輸)

社員がより安心して働ける環境を整備し、継続的な人材確保に繋げていくため、フルタイムのセールスドライバーの正社員化に向けたプロセスを変更しました。これまでは、正社員への登用を前提としつつ、入社時は契約社員として採用し、社内のチャレンジ制度を経て、おおむね2年程度で正社員に登用していましたが、このプロセスを変更し、入社時から正社員として採用することとしました。



株主の皆様の優先ご招待枠を設けました。この機会にぜひご応募ください。

「羽田クロノゲート」&「関西ゲートウェイ」 見学コースのご案内

ヤマトグループは、物流をコストから「バリュー（付加価値）を生み出す手段」に進化させ、日本経済の成長と国際競争力の強化に貢献する「バリュー・ネットワーキング」構想を推進しています。

「羽田クロノゲート」に続き、スピード輸送ネットワークと高度な付加価値機能を一体化した物流ターミナルとして2017年11月に稼働を開始した「関西ゲートウェイ」においても、宅急便をはじめとする物流の仕組みや、「バリュー・ネットワーキング」構想のもと推進する取組みをご紹介する見学コースを設けており、皆様から大変好評をいただいています。

実際の設備や展示の見学、アトラクションを通して、ヤマトグループが提供する「物流の付加価値」をご体感ください。

● 羽田クロノゲート ●

「羽田クロノゲート」は、国内と海外をつなぐ「ゲートウェイ」となるべく、ギリシャ神話の時間の神〈クロノス〉と、〈ゲート〉（門、出入り口）の2つの言葉を組み合わせて、「新しい時間と空間を提供する物流の「玄関」であるとともに、物流の新時代の幕開け」となることを目指して名付けました。陸・海・空の輸送モードを利用できる立地を活かし、速く正確に届けるための仕組みや、ヤマトグループの多彩な付加価値機能を集結しています。



● 関西ゲートウェイ ●

「関西ゲートウェイ」は、関西圏をはじめとした西日本エリアと東日本エリアをつなぎ、日本国内の主要都市間におけるスピーディで効率的な輸送を実現するための総合物流ターミナルです。発着同時仕分けが可能な最新鋭の設備や、日本最長25mの「スーパーフルトレーラ25」などで、効率的な物流を実現しています。



2017年11月
稼働開始

各見学コースについてWEBサイトでご紹介しています。

「羽田クロノゲート」見学コース

<http://www.yamato-hd.co.jp/hnd-chronogate/visitortour.html>

「関西ゲートウェイ」見学コース

<http://www.yamato-hd.co.jp/gateway/visitortour.html>



【100THANKS】

ヤマトグループの歴史をひもとくコーナーです。



【見学者ホール】

映像で過去・現在・未来をご紹介します。



【見学者コリドー】

最新の仕分け機器や付加価値機能をご覧いただけます。

物流ターミナルを探検しませんか？

- ご応募多数の場合は抽選によるご招待とさせていただきます。
- 他の株主様や一般のお客様と合同の20～40名のグループごとの見学です。
- 小学校高学年以上の方に理解しやすい内容となっておりますが、どなたでもご参加いただけます。
- 説明員の話す言語は日本語です。映像を見るポイントでのみ、音声ガイド(英語・中国語の2カ国語)または字幕をご利用いただけます。

- アクセス ※電車・バス等の公共交通機関のご利用をお願いします。
※往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。
- 羽田クロノゲート 所在地 東京都大田区羽田旭町11-1
・京浜急行空港線「穴守稲荷駅」より 徒歩約5分
・京浜急行空港線「天空橋駅」より 徒歩約10分
・東京モノレール「天空橋駅」より 徒歩約10分
- 関西ゲートウェイ 所在地 大阪府茨木市松下町3-1
・東海道本線「茨木駅」より バスで約10分
・阪急京都線「茨木市駅」より バスで約13分

開催日時／2019年3～6月の土日祝日(下記の色がついている日) 集合・解散場所／羽田クロノゲート・関西ゲートウェイ 各受付
■ 14:00～ ■ 10:00～

2019.3

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | | | | | 1 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

2019.4

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|-------------|
| | | | | | | 1 2 3 4 5 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | | | | |

2019.5

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|---------|
| | | | | | | 1 2 3 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

2019.6

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

応募要項

- 応募期間 2019年2月1日(金)～2019年2月13日(水)
※2019年2月13日消印有効
- ご招待人数 各回6名(株主様1名につき同伴者1名まで)
※一般のお客様と合同のグループでの見学となります。

〈ご注意〉

- ・ご応募はお一人様1回限りとさせていただきます。WEBとハガキの両方でご応募があった場合は、WEBのご応募を優先させていただきます。
- ・ご応募の際は必ず同伴者の有無とご希望の施設(羽田または関西)をご入力(ご記入)ください。
- ・見学コース内でのカメラ、携帯電話などによる写真撮影、ビデオ撮影、録音はできません。
- ・見学時間は羽田クロノゲートは約90分間、関西ゲートウェイは約80分間です。見学中に休憩時間は設けておりません。
- ・貸出用車椅子、ベビーカーをご用意しています。貸出を希望される場合は、お申し出ください。
- ・作業の都合上、見学中に機械が動いていない場合があります。
- ・天候・当施設の都合等により、やむを得ず見学を中止、または内容を変更する場合があります。
- ・小学生以下のお子様には保護者の方がご同伴ください。
- ・当選した権利を他人に譲渡することはできませんのでご了承ください。
- ・今回ご応募いただきました株主様の個人情報は見学コースのご招待に係る業務以外での目的には使用いたしません。

※ご質問などのお問い合わせ先

ヤマトホールディングス

株主様羽田クロノゲート・関西ゲートウェイ見学窓口

(株主様羽田クロノゲート・関西ゲートウェイ見学窓口をお呼び出してください)

TEL 03-3541-4141 平日9時～17時

(お電話によるご応募は受け付けておりません)

音楽宅急便

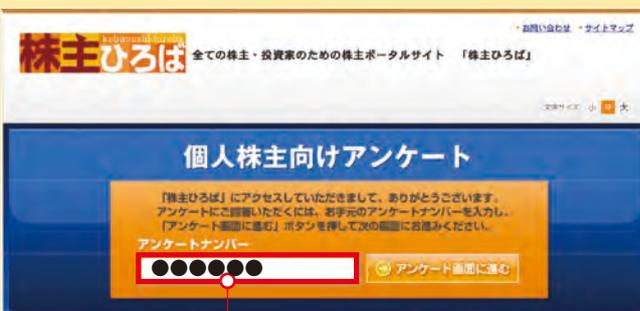
音楽宅急便のご招待のご案内は、
次回の「株主の皆様へ」にてご案内予定です。

応募方法

①WEBで応募

Yahoo!やGoogle®などの検索エンジンから「株主ひろば」にアクセスしてください。

株主ひろば 検索 応募に際しては、「株主ひろば(個人株主向けアンケート)」システムを用いて実施させていただきます。



応募方法:「株主ひろば」(<https://kabuhiro.jp/>)画面中央の入力ボックスに、(●●●●●●)を入力して応募画面にお進みください。
ご入力の際、アンケートへのご協力をお願いします。今後の株主通信の制作・改善の参考とさせていただきます。

このシステムは、株式会社アイ・アール ジャパンが運営しています。

②ハガキで応募

郵便ハガキをご用意いただき、必要事項①株主様ご本人のお名前②ふりがな③郵便番号④ご住所⑤年齢⑥ご連絡先電話番号⑦参加ご希望日とご希望の施設(羽田または関西)⑧同伴者の有無をご記入の上、送付をお願いいたします。

ハガキ送付先: 〒100-6026

東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング26階
ヤマトホールディングス(株)
羽田クロノゲート・関西ゲートウェイ見学係

ご当選の発表は、2019年2月下旬頃のご案内の発送をもって代えさせていただきます。

連結財務諸表(要旨)

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

| | 前第2四半期 連結累計期間 2017年4月1日～ 2017年9月30日 | 当第2四半期 連結累計期間 2018年4月1日～ 2018年9月30日 |
|---|--|--|
| 営業収益 Point 1 | 729,802 | 789,131 |
| 営業原価 | 717,675 | 740,377 |
| 営業総利益 | 12,126 | 48,754 |
| 販売費及び一般管理費 | 25,014 | 25,319 |
| 営業利益又は営業損失(△) Point 2 | △12,887 | 23,435 |
| 営業外収益 | 1,279 | 1,222 |
| 営業外費用 | 992 | 1,900 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △12,600 | 22,756 |
| 特別利益 | 141 | 40 |
| 特別損失 | 1,010 | 1,069 |
| 税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△) | △13,469 | 21,727 |
| 法人税等 | △1,537 | 11,597 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △11,931 | 10,130 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 155 | 148 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) Point 3 | △12,087 | 9,981 |

ポイント解説

Point 1

営業収益は、デリバリー事業の構造改革を推進したことにより、宅急便取扱数量は減少したものの、宅急便単価が上昇したことなどにより、前年同期に比べ8.1%増加し、7,891億31百万円となりました。

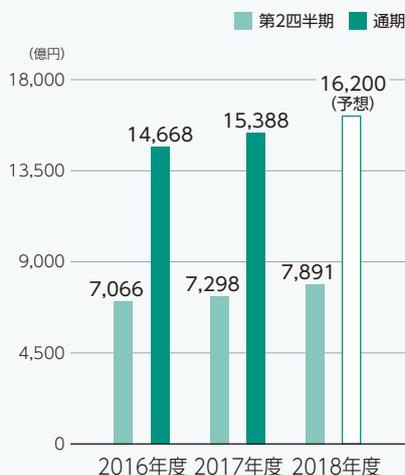
Point 2

営業利益は、体制強化を進めたことなどにより営業費用は増加したものの、営業収益がそれ以上に増加したことなどから、前年同期に比べ363億23百万円増加の234億35百万円となりました。なお、ヤマトホームコンビニエンス株式会社が法人のお客様の社員向けに提供している引越サービスにおいて不適切な請求があったため、調査結果を踏まえた見積り影響額31億4百万円を、連結業績に織り込んでいます。

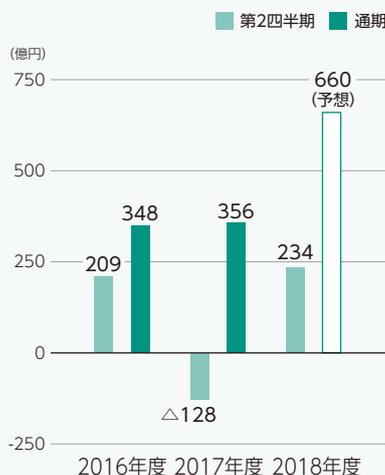
Point 3

親会社株主に帰属する四半期純利益は、99億81百万円となりました。

営業収益



営業利益(損失)



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益(損失)



四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

| | 前連結 会計年度 2018年3月31日 | 当第2四半期 連結会計期間 2018年9月30日 |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------------|
| [資産の部] | | |
| 流動資産 | 559,635 | 541,395 |
| 固定資産 | 555,235 | 561,476 |
| 有形固定資産 | 405,057 | 409,254 |
| 無形固定資産 | 20,131 | 19,407 |
| 投資その他の資産 | 130,045 | 132,814 |
| 資産合計 Point ① | 1,114,870 | 1,102,872 |
| [負債の部] | | |
| 流動負債 | 395,035 | 391,484 |
| 固定負債 | 162,247 | 147,867 |
| 負債合計 Point ② | 557,283 | 539,351 |
| [純資産の部] | | |
| 株主資本 | 541,821 | 546,280 |
| その他の包括利益累計額 | 8,486 | 9,598 |
| 非支配株主持分 | 7,279 | 7,640 |
| 純資産合計 Point ③ | 557,586 | 563,520 |
| 負債純資産合計 | 1,114,870 | 1,102,872 |

※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しております。

ポイント解説

Point ①

資産合計は、車両購入や物流ターミナルの新設(流山ベース)などにより有形固定資産が増加した一方で、借入金返済のため現金及び預金が減少したことなどにより、前連結会計年度に比べ119億98百万円減少し、1兆1,028億72百万円となりました。

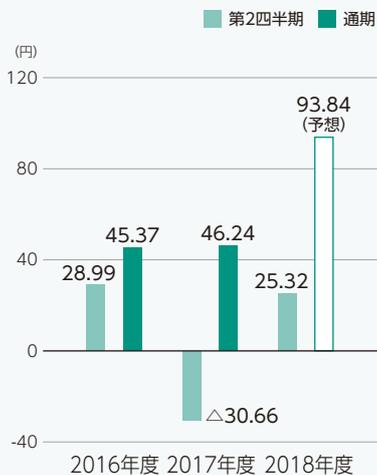
Point ②

負債合計は、グループ資金を活用したことで借入金が257億11百万円減少したことなどにより、前連結会計年度に比べ179億31百万円減少し、5,393億51百万円となりました。

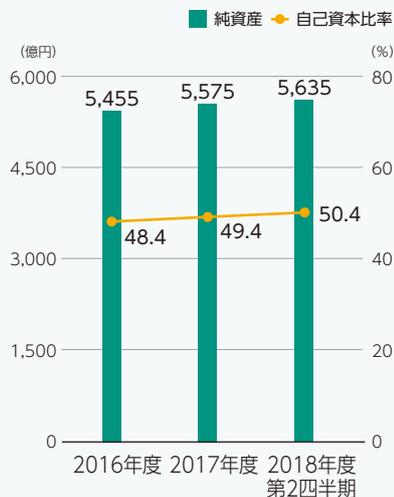
Point ③

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益が99億81百万円となったこと、および剰余金の配当の実施などにより、前連結会計年度に比べ59億33百万円増加し、5,635億20百万円となりました。

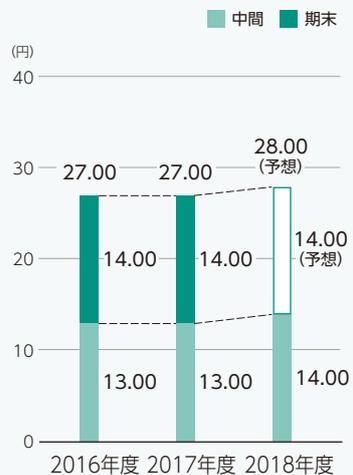
1株当たり四半期(当期)純利益(損失)



純資産/自己資本比率



1株当たり配当金



連結財務諸表(要旨)

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| | 前第2四半期 連結累計期間 2017年4月1日～ 2017年9月30日 | 当第2四半期 連結累計期間 2018年4月1日～ 2018年9月30日 |
|---|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー Point 1 | △11,278 | 45,305 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー Point 2 | △21,531 | △30,205 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー Point 3 | △22,800 | △32,586 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △48 | △306 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △55,658 | △17,792 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 228,926 | 202,863 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 173,268 | 185,070 |

ポイント解説

Point 1

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が増加したことなどにより、前年同期に比べ収支が565億84百万円増加し、453億5百万円の収入となりました。

Point 2

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、前年同期に比べ支出が86億74百万円増加し、302億5百万円の支出となりました。

Point 3

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金を返済したことなどにより、前年同期に比べ支出が97億85百万円増加し、325億86百万円の支出となりました。

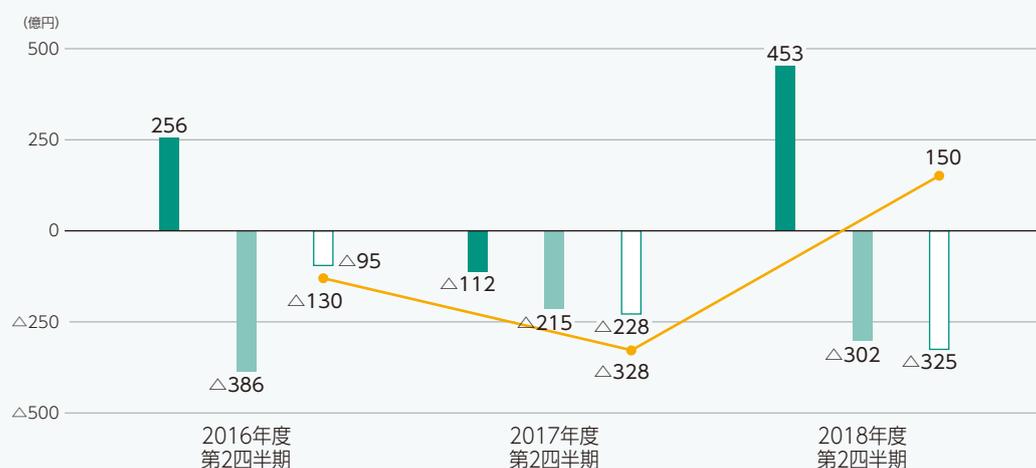
より詳細な連結財務諸表につきましては、
ホームページ(<http://www.yamato-hd.co.jp/>)をご覧ください。

ヤマトホールディングス 財務

検索

キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー □ 財務活動によるキャッシュ・フロー ◆ フリー・キャッシュ・フロー



株式の状況 / 会社概要 (2018年9月30日現在)

株式の状況

| | |
|----------|----------------|
| 発行可能株式総数 | 1,787,541,000株 |
| 発行済株式の総数 | 411,339,992株 |
| 株 主 数 | 34,570名 |

大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|--------------------------------|---------|---------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 40,811 | 10.35 |
| ジェーピー モルガン チェース バンク 380055 | 25,723 | 6.52 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 24,885 | 6.31 |
| ヤマトグループ社員持株会 | 19,244 | 4.88 |
| 日本生命保険相互会社 | 14,770 | 3.75 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 14,314 | 3.63 |
| 株式会社みずほ銀行 | 10,997 | 2.79 |
| エスエスピーティーシー クライアント オムニバス アカウント | 9,175 | 2.33 |
| ヤマトグループ取引先持株会 | 8,295 | 2.10 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) | 6,471 | 1.64 |

※自己株式は上記の大株主一覧より除外しています。
 ※持株比率は自己株式数を控除して算出しています。

会社概要

| | |
|-------|---|
| 商 号 | ヤマトホールディングス株式会社 |
| 本店所在地 | 〒104-8125 東京都中央区銀座二丁目16番10号 TEL 03-3541-4141(代表) |
| 創 業 | 1919(大正8)年11月29日 |
| 設 立 | 1929(昭和4)年4月9日 |
| 資 本 金 | 127,234,791,077円 |

●ヤマトホールディングスホームページのご案内●

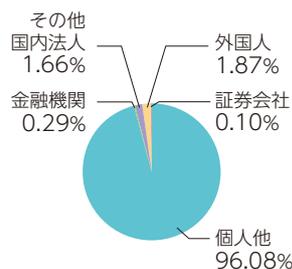
ヤマトグループに関するさまざまな情報がご覧いただけます。

<http://www.yamato-hd.co.jp/>

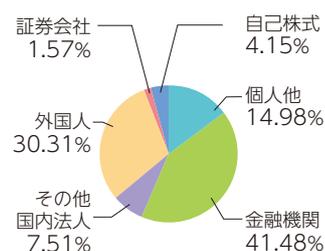
株価・売買高の推移(東京証券取引所)



株主数比率



株式数比率



株主メモ

| | |
|-----------------------|---|
| 決 算 期 | 3月31日 |
| 定 時 株 主 総 会 | 6月に開催 |
| 期 末 配 当 基 準 日 | 3月31日 |
| 中 間 配 当 基 準 日 | 中間配当を行う場合には、9月30日 |
| 株 主 名 簿 管 理 人 | みずほ信託銀行株式会社 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 |
| 事 務 取 扱 所 (手続お申出先) | みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 |
| 公 告 方 法 | 電子公告(http://www.yamato-hd.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合 は、日本経済新聞に掲載して行います。 |
| 銘 柄 コ ー ド | 9064 |

ヤマトホールディングス株式会社

〒104-8125 東京都中央区銀座二丁目16番10号

TEL 03-3541-4141 (代表)

<http://www.yamato-hd.co.jp/>

